



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第6回)



財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 給水で飲み残した水も大切に…!

攻守交代時に残塁の走者や打者にベンチから給水に行きますが、飲み残した水をグラウンドに捨てている光景をしばしば見かけます。これは見ていて気持ちの良いものではありませんが…。

厳しい暑さの中で試合に臨む頃となりました。熱中症の予防のために水分補給は欠かせません。攻撃から守備に移るとき、残塁の走者や打者の道具とともに水やスポーツ飲料水を届けに行くことは、ベンチの重要な任務です。その試合のために持ち込んだ水、仲間が届けてくれた水は大切なものです。飲み残した水は必ずベンチに持ち帰ることを心がけて下さい。ユニフォームや道具の扱いと同様に、「水」も大切にしたいものです。「平気で」はもちろん、「何気なく」やり過ごしている日常の一コマをマナーの観点から仲間同士で見直していきましょう。

ルール編 同じ塁上に走者が2人重なった場合はどうなるの?

1死走者二・三塁で、打者はスクイズを企てましたが、バッテリーはうまく見破り、三本間で三塁走者へのランダウン(挟撃)プレイが始まりました。この間に二塁走者は三塁へ到達、三塁走者も戻ってきたため三塁には2人の走者が触れています。野手は戻ってきた三塁走者にタッグ(触球)してアウトを主張していますがこの場合はどうなる?

同一塁上に2人の走者が重なるケースは、多くの場合ランダウン・プレイの後に続けて発生します。上記のケース以外にも二塁走者にタッグ(触球)したり、両走者にタッグする野手もいます。

規則7・03(a)に、「二走者が同時に一つの塁を占有することは許されない。ボールインプレイの際、**二走者が同一の塁に触れているときは、その塁を占有する権利は前位の走者に与えられている**から、後位の走者はその塁に触れていても触球されればアウトとなる。」と定められています。したがって、三塁の占有権は戻ってきた三塁走者にあり、タッグされてもアウトにはなりません。同じベースに着いていても二塁走者にタッグすればアウトにできたのです。

タッグされた走者が、アウトになったと勘違いしてベースを離れてしまい、続けざまにタッグされた両方の走者がアウトになったケースもありました。守備側も、とりあえず両方の走者にタッグしておけばいい、ということではなく、規則を理解した確実なプレイを心がけましょう。

なお、ランダウン・プレイを「挟撃プレイ」ということがありますが、正しくは「**挟撃プレイ**」です。この機会に改めてください。

